

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470104401		
法人名	テルウェル西日本株式会社		
事業所名	NTTグループケアポート広島 認知症対応型共同生活介護事業		
所在地 (電話番号)	〒732-0816 広島市南区比治山本町11-1 (電話) 082-250-1280		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成19年8月24日	評価確定日	平成19年9月19日

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 17 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	17.5

(2) 建物概要

建物形態	併設型	新築 / 改築
建物構造	軽量鉄骨造り 2階建て 2階建て0. 1階 ~ 2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	退所時返金
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.5 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科・形成外科・眼科・歯科・耳鼻咽喉科・皮膚科各医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの運営母体の協力によって、運営理念や職員教育、事務管理、プライバシー保護などの確立された経営手法が介護の現場にも展開されている。平成16年に広く地域に貢献するためと開設され、家族のように利用者と職員が支えあい、共に喜びや楽しみを創って行こうというホームの経営理念の心根がここで生活する利用者の穏やかな表情から読み取れる。また、生き生きと働く職員が、お年寄りにそっと寄り添っている姿に、ケアの理念の根付きを確かめることが出来る。盛夏の朝、利用者と職員が日除けのほおかぶりをして、ホーム内の菜園のトマトの水遣りに笑顔でバケツを持って出かけようとしている姿がごく自然であり、今求められている地域の中で、その人らしさを大切に生きていくことを支援するケアの姿勢と伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善課題は特にない。管理者、職員は日常的に折りに触れ、経営理念に立ち返り、確認し、マンネリによるサービスの質の低下に特に留意し、常に最良のケアに向けての改善意欲が感じられる。今後とも、ケアの基本を大切にして、継続的な取り組みが期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価を基に、全職員が利用者のために、また自分たちも更に向上しようとする熱意が感じられる。ある職員が、「このホームは、これからまだまだ進化する」という言葉が特に印象に残る。今後も全職員で評価内容を一つ一つ検討し、課題を見つけ、更なる改善に結びつけることが期待される。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>管理者・職員が地域密着型サービスの特性を十分に把握し、運営推進会議が地域に根ざした形で効果的に開催されている。何よりも、管理者は「認知症アドバイザー」として近隣地域に積極的に出向き、認知症ケアの啓蒙活動にも取り組んでいることが功を奏している。折りによく、町内には経営母体のOBの方も多く、人的ネットワークの広がりや支援も大きく、開催場所も地域の集会所を活用していることも特徴である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>このホームでは、サービスの質の確保・向上のために、日常的には家族の意見や苦情を聞き、気軽に話し合える雰囲気作りの取り組みがあり、しっかり意見交換しながら運営されている。また、当事業所には外部の苦情受付機関があることも入所時にはよく説明している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>このホームは、緑深い比治山の麓に位置し、すぐ近くに公園がある。この公園は当ホームの利用者にとっては散歩コースであり、ここで地域の人たちと挨拶をしたり、会話を楽しんだりして触れ合う絶好の場となっている。ホームのアルバムには、近隣の人たちとつづぐ入居者の笑顔、町内の盆踊りに参加などの多数の写真が収録されている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義をスタッフ全員で確認し合い、また利用者、家族が連携して取り組むことを念頭においてつくり上げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については毎朝唱和し、日常的な活動の中で振り返り、確認し合いながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くに公園があり、散歩などを通して日常的には地域の人々や近所のお年寄りと交流している。また、地域の小学生、中学生、老人会、町内会、ボランティアグループ等との交流の場も積極的に設け、開かれたグループホームを目指している。地域主催の介護に関する勉強会では当事業所の管理者が講師を勤めるなど地域の相談も受けている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの評価の意義や目的を全職員に伝え、サービス品質向上に生かしている。また、外部評価の結果は事業所の入口に置き、来訪者、家族、職員など誰でも目にするようにしている。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、近隣の集会所で2ヶ月に1回定期的で開催されている。出席者も多く、地域の協力をしっかり得て、地域の行事など好意的に受け入れられている。会議の内容は家族に報告し、意見を聞きサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)		
	6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		地域が主催する研修会には、参加するなどして関係作りを図っている。また、管理者が認知症アドバイザーの資格が有るため市や地域包括センターと連携して地域貢献に取り組んでいる。	ホームの管理者が「認知症アドバイザー」として、市や地域包括センターと連携した地域への啓蒙活動は高く評価される。今後とも、認知症の人々を地域社会で包み込む環境づくりの成果が期待される。	
4. 理念を実践するための体制							
	7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			ホームの中での暮らしは、事業所便りを毎月1回発行して家族には報告している。個々の様子については、家族の来訪時に報告し、意見や要望も合わせて伺っている。	
	8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			日常的には家族の意見や苦情を常に聞き、そして何でも話し合える雰囲気作り心がけている。その時の要望や苦情はミーティングで話し合い、これらをサービスの向上に反映させている。	
	9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			基本的には各ユニットの職員を固定化して馴染みの職員のケアづくりに心がけ、不安を持たせないようにしている。	
5. 人材の育成と支援							
	10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるように研修機会の確保に努め、職員の能力のレベルアップを図っている。	
	11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			関連の事業所や近隣の事業所などには、研修会や交流会を持つことにより情報を交換し合い、ネットワーク作りとサービスの質の向上を目指している。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用前には、本人が家族が共に事業所を見学することから始まり、職員や他の利用者と一緒に生活する場に徐々に馴染み、また安心や納得して生活ができていくのを見極めながら、安定的な利用に移行するよう利用者の視点に立って支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理・食卓の準備・片付け等お互いが協働しながら、和やかな生活が出来るように場面作りや声かけをしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で声をかけをし、また会話の中でどのように暮らしたいのか、何をしたいのかなど常に把握に心がけている。言葉や表情などからもその真意を推し測り、それとなく確認するように努力がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が安心して安全に快適に暮らせるように、本人や家族及びホームの関係者を交えて思いや意見を聴き、事業所外の関係者の意見も含めて課題となる事をスタッフ全員で話し、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月、利用者の状態の変化や状況や家族や本人の要望に応じて随時柔軟に見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じて、通院や送迎及び特別な外出支援などには柔軟に対応し、本人と家族の暮らしを守る支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設として利用者の心身の変化や異常について気軽に相談できる提携医院を確保しているが、このほか家族が、かかりつけ医を希望する場合はその意向に沿って対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当施設は医療体制や設備を持っていないが、家族の意向に沿ってスタッフ、提携医、かかりつけ医、ケアマネジャー等と相談しながら終末期ケアに向けて最善の方策を立てている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを守り、人としての尊厳を大切にしていけることが、当施設の重要な柱の1つとして取り組んでいる。特に利用者の個人記録・情報は、鍵のかかるキャビネットに保管し情報の漏洩には細心の注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にとっては当ホームは自分の家庭であり、また家庭にはそれぞれのペースがあるという認識で個別ケアに努めている。一人ひとりの状態や思いに配慮しながら声かけや入浴、食事等の支援は柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや嗜好を大切に、季節が感じられる献立や彩り・食器等にも配慮してスタッフと一緒に会話を楽しみながら食事の時間を過ごしている。また、調理、後片付け等も個々の利用者の力を活かしながら、やってみたいという前向きな意志や気持ちを引き出すような声かけ・場面作りに努めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの習慣や意向に沿って、健康状態を見ながら柔軟に支援している。入浴を嫌う利用者には、タイミングを計りながら昼夜なく対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り・献立書き・洗濯物のたたみ等、個々の出番を見つけ力を発揮できるように支援している。花見・菊花観賞・野菜の収穫等四季折々の取り組みや歌、踊りなど能力にあった楽しみごとを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外の風や空気に触れるため、施設内の畑や近くの公園またスーパーへの買い物など日常的に出かけている。気分転換のための外出支援に努めている。		
支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が施錠することの弊害を理解しており、出て行く気配を見落とさない見守りや連携プレーで安全を確保している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回利用者と共に防災マニュアルに則り実施しており、災害時に地域との協力が得られるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの1日の栄養量や水分量が、十分摂取されているかをたえずチェックしている。また、便秘予防のために飲み物や献立の工夫もしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には、職員や利用者による四季折々に制作した貼り絵などの共同作品を飾り、共用の空間が季節感のある安らぎの場となるように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し、居室内のカーテンやベッド、たんす等の備品はなるべく使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらい、居心地良く過ごせるように配慮している。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 NTT グループケアポート広島 認知症対応型共同生活介護事業所

評価年月日 19年 7月 1日

記入年月日 19年 7月 25日

記入者 職 グループホーム管理者 氏名 西田 美和子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	利用者の皆さんと施設の理念「支えあい共に創る生活」の実現に向け、地域との交流も深めている。		家族、地域、スタッフとの連携・触れあいといった視点で取り組んでいく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念については日常的な活動の中で共通のものとしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域との交流や触れ合いを大切にして、潤いと温かみのあるホームをめざしておられ、取り組みの状況は「ケアポートだより」により毎月、ご家族にも報告している。		潤いと温かみのあるホームづくり

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。	近くに公園があって多くのお年寄りや地域の人々が利用しており、日々の散歩等を通じて地域の皆さんとの触れあいができるよう努めている。		老人会や地域の皆さんとの触れあい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の家族、子供たち、ボランティアグループとの交流を通じてケアポート広島と地域とのつながりがより深まるよう取り組んでいる。盆踊り等地域行事へ参加している。		地域の学校、保育園、老人会、ボランティアグループなど地域との交流。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の老人会等で認知症に対する研修会が開催されたおり、ケアポート広島の管理者が講師として出席するなど、地域貢献にも努めている。		施設としての可能な限り、地域への貢献にも取り組んでいく。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今日より明日はもっと「サービス品質向上」という気持ちで評価を活かしていくとともに、利用者満足度アップをめざしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	おおむね2か月に1回運営推進会議を開催しており、評価結果や取り組み状況について報告している。意見交換のなかで、いただいた意見は取り組みに活かす努力を行っている。		2か月に1回の運営推進会議の開催。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	認知症アドバイザー資格をもった管理者が市や、地域包括支援センターとの連携を密にして、地域貢献に取り組んでいる。		今後できることは市や地域包括支援センターとともに地域貢献の取り組みをおこなう。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	主旨について理解を深めており、利用者の2名のご家族に紹介をして、すでに活用の実績もある。		スタッフ全体のレベルアップのため、幅広く理解が深まるよう、勉強会等を含めて取り組んでいく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々の取り組みのなかや、研修にスタッフを参加させて虐待防止の意義を理解し、ケアのレベル向上に努めている。		ホームの重要な取り組み施策の一つとして今後も継続して取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容、重要事項の説明のみならず、日々の生活、将来的な対応やご家族の意向をお聞きして、ケアの方向づけを一緒に考えていくようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の皆様からの要望や意見は、日々のケアの中で活かしていくこととしており、ご家族の皆さまとも意見交換を行っている。また、外部の苦情受付機関は重要事項の中で説明。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ホームとしての暮らしぶりについては毎月のケアポートだよりで報告。個々の利用者のケアや健康状態等については、ご家族が来所されたおりに報告させてもらっている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の来所時にご利用者の状況説明やご家族からの意見をいただくようにしている。苦情等における外部機関については重要事項説明書で説明することとしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送り時や毎月のミーティングの中で意見交換を行っており、提案や意見は運営の参考にしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	24 時間体制の中でスタッフを配置して、見守りの空白がないようにしている。利用者の皆さまの状況の変化があれば、状況を把握して対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>1ユニットと2ユニットのスタッフはできるだけ固定にしておき、それぞれのユニットで不安なく生活していただけるよう取り組んでいる。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>部内外の研修を含めて、スタッフのレベルの向上に取り組んでいくこととしている。</p>		<p>スタッフのレベル向上のための研修機会の確保。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>事業者交流には積極的に参加していくこととしており、活動を通じて同業者間のネットワークづくりとサービスの品質向上に努めている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>花見や焼肉パーティーなどスタッフの交流の場をもうけて、職場環境づくりに努めるとともに、有給休暇等を活用するよう取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>スタッフが意欲と希望をもって働ける環境づくりに努めている。また、レベルアップのための研修会等にもできるだけ参加させるようにしている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>安心して安定した暮らしをしていただくために、利用者本人の要望やご家族の意見も参考にケアプランをたてることとしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居されるに当たっては利用者の状況やご家族の要望をお聞きして、個別ケアに努めるとともに、電話やご家族が来所されたおりに状況を説明し、意見交換を行っている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の皆さまと意見交換をしながら、ご利用者一人一人の状況と必要に応じたケアを行うよう努めていくこととしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者の皆さんの個々の特性を把握して自然にケアができるように努めており、スタッフは1ユニット、2ユニットできるだけ固定して、顔なじみとなり、安心して生活いただけるよう取り組んでいる。利用にあたっては、事前に他の利用者の皆さまと一緒にお茶をのんで顔みしりになり、本人が安心して納得のうえ、入居していただいたケースもある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理のお手伝いや、洗濯物をたたんでもらったり、毎日の食事メニューを掲示板に書いてもらったり、できること得意なことをお願いして手伝ってもらい、生活を利用者の皆さまとスタッフが一緒に創っていくようにしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の支援、スタッフの役割、また、ご家族と一体となった支援など協力しあって生活を支えていくこととしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族の力と支えはとても大きく、本人と家族とのより良い関係が更に高まっていくようサポートしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、ご親戚、知人、友人の方が気軽に来所いただける施設を目標にして取り組んでいる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	誕生会やレクリエーション、日々の食事や生活の中で、利用者の皆さんのお互いの心の交流ができるように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了した利用者の皆さまと継続した関わりが十分なものにはなっていないが、機会をとらえては、その後の状況をおたずねするなど、つながりを大切にするよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月のカンファレンスの中で、本人のケアにとって、何が最良であるかスタッフ間で意見交換してケアプランを作成している。		ご自分の意志を表されることのできる方にはカンファに同席してもらい、本人のご希望をお聞きすることもある。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴の把握が一人一人のケアに欠かせない重要事項となっており、大切なスタッフ共有の情報として認識している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎月のカンファレンスの中で一人ひとりの状態をスタッフ間で確認して、ケアプランを作成しており、加えて、日々の状況をスタッフ間で共有して、その時の状況にあったケアに努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者の皆さまが安心して、安全に快適に生活していただくためのプランをスタッフ間で意見交換しており、プランの実行に当たってはご家族の意見やご希望も参考にしている。		利用者本人、ご家族の希望をケアプランに取り入れている。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランは毎月、利用者の皆さまの現状をみながら、ご家族の皆さまの意見も参考に実態にそくしたプランをたてている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日報に利用者個別の様子や気づき、ケア状況を記録しており、常にスタッフ間で情報の共有に努め、介護の実践の中に活かしている。		ご家族にも利用者ご本人の個別記録を見てもらっている。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	統一的でなく、個々の要望に沿ってメニューを変え、状況によっては、当施設内のデイサービスのレクリエーションに参加するなど、施設内の機能を活かして、生活の広がり支援を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、地域の中学校、地域包括支援センターやボランティアサークル等と連携しながら地域への貢献、介護サービスの品質向上、生活の広がりにも努めている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他事業者のサービスを利用する状況にはないが、ケアポート広島の中にデイサービスがあり、連携をとりながらサービスの充実に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと広い意味でのケアマネジメントに対する意見交換は行っているが、利用者個々のケアプランは本人の状況や意向、ご家族の意見を参考としている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	施設としての提携医院もあるが、ご家族が、かかりつけ医を希望される場合は、意向を尊重している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携している医院の先生に毎週診察してもらいまた、相談しながら対応している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が1名いて看護師としてのアドバイスはもらうが、主は計画作成担当者ならびに介護スタッフとして従事してもらっている。看護職との協働という状況にはまだない。		医療連携の方向づけの一環として今後の検討課題。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者の入院にあたってはご家族の意向や提携医の先生、並びに入院先の先生とも相談しながら行っており、退院に当たっても、退院後のケアを含めて先生等とも相談しながら最善の方策に努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合等の対応については提携医並びにかかりつけ医、ご家族とも相談しながら方針を定めている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医療体制や設備のない当施設として、何がどこまでできるかということを中心にご家族や提携医、かかりつけ医、ケアマネージャーと相談しながら最善の方策をたてている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>環境が変わることのダメージを想定してご家族、ケアマネージャー等関係者と相談しながら対応している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーを守り、人としての尊厳を大切にしていくことはケアポート広島の柱の一つ。利用者個人情報の保護は会社としての最大の取り組み事項としている。また、記録は鍵のかかるキャビネットに保管している。</p>		<p>人としての尊厳を大切に、プライバシー・個人情報保護の取り組みを最大の目標に努めていく。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者本人の意思を大切にという取り組みは尊厳と結びついており、利用者の皆さんの目線にたったケアに努めていくこととしている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の皆さまにとってホームは個々の家庭であり、家庭にはそれぞれのリズムとペースがあるという認識で個別ケアに努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	気候や外出等生活の TP0 にあったおしゃれの支援を行っている。理美容は出張理美容店と契約して施設内でできる様にしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節が感じられる献立や、一人一人の状況、好みにも配慮している。調理は入居者の皆さんにも手伝ってもらっており、スタッフが一緒に見守りながら食事を摂るようにしている。		公園等で昼食をとったり、戸外でおやつを食べていただいたりもしている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者本人の好みや嗜好を大切に、状況や状態を見ながら支援している。		たばこを嗜好される方にはスタッフが付き添って喫煙場所で楽しんでもらっている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おむつの使用を少しでも減らしていく支援とともに、一人一人の排泄のパターンや状態を把握して、その人に沿った排泄支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	原則的には、2日に1回の入浴としているが、利用者一人一人の状況を見ながら入浴支援を行っている。		すすめてもなかなか入浴されない方には、タイミングがあえば、夜でも入浴してもらっている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者一人一人の生活パターンやその時々状況に沿った支援を行っている。		ソファーでうたた寝されている方には、声かけをして、昼寝をすすめている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	花見、菊花展、畑での野菜の収穫など四季折々の季節を感じることでできる取り組みや利用者の皆さまの誕生会あるいはボランティアグループによる歌・踊り・演奏など、生活の潤いがもたれる取り組みを行っている。		台所仕事、メニューを書いてもらう。洗濯のたため、イリコの頭もぎ等の手伝い、読書の好きな方には本を用意している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持ちたいと希望される方には、持っていていただき、ショップでの買物支援も行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	施設内には畑があり、また施設のすぐ近くには公園があって、日常的に外の風と空気に触れていただくよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	スーパーへの買い物、花見や菊花展、クリスマスシーズンの夜のイルミネーション見学など季節を感じてもらおう支援やホテルでの喫茶体験など生活づくりの支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族等への電話を希望される場合は電話をかけることの支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や知人の方がいつでも気軽にお越しいただけるようにしており、お泊りを希望される時には宿泊もできるようゲストルームを準備している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の皆さまの安全上、やむを得ない場合の身体拘束マニュアルはあるが、拘束しないという方針に沿ってケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室は常にオープンにしており、建物内の鍵かけについては利用者の皆さまの安全確保のうえで必要最小限のものにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の皆さまの安全確保のため、プライバシーに配慮しながら24時間見守りができる体制にしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	毎月始めを施設の安全点検日と定めて利用者の皆さまにとって危険はないか点検しており、安全第一に取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの状態をスタッフ全員で認識して、事故防止のため意見交換をしている。また、食中毒防止等の取り組みや過去の事故事例等を参考に事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	不定期ではあるが、消防署の指導による救急時対応について勉強会を開催しているが、初期対応を含めて事故発生に備えた習得が必要。		救急時の応急手当や初期対応のレベル向上。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火訓練は施設内で毎年実施しているが、更にレベルを上げていく取り組みが必要であり、あわせ地域との連携もこれからの課題。		地域との連携、年2回の防火訓練の内容の充実とレベル向上。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居時に利用者の皆さまの緊急時の対応等、ご家族と意見交換している。リスクを避けるために生活の幅を縮めたり、制限するという方策はとっていない。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者の皆さま一人一人の体調についてはバイタルチェックをして、気づいた点は日報や毎日のミーティングあるいは、申し送りにより情報を共有している。異変があれば提携病院のドクターと相談している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の調整は外部の薬剤師に依頼している。一人一人の薬の内容等についてはスタッフ間で情報を共有して服薬支援をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	なるべく野菜を多くした食事にして便秘の予防に努めており、便秘が長く続く方には飲食物の工夫もしている。便秘薬の服用も便の状態をみて、量の調整を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後必ず口腔内の清潔保持のための支援をしており、入れ歯を清潔に保つため、週1回必ず入れ歯を消毒するなどの取り組みも行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の体調や状態に応じて食事の内容も替えている。水分については特に注意して摂取支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日々、感染症予防を意識した取り組みを行っている。ケアポート広島における感染予防マニュアルがその基本。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	管理栄養士による衛生指導と点検を実施しながら、安全へのレベル向上を図っている。		食中毒の多発時期に管理栄養士による衛生講習会の実施(年1回)と四半期ごとの衛生点検を実施する。
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関入り口には花や水槽を配備して安らぎの空間を作るとともに、建物の周囲に畑を作って親しみやすい環境の工夫をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関、居間には入居者の皆さまによる季節ごとの貼り絵の飾り付けがあり、共用の空間が安らぎの場となるよう工夫している。また、テレビのつけっぱなしはしないこととしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者の皆さまと一緒に過ごせる場所や離れて一人になれるソファ、横になれる畳の間など状態にあって過ごせるよう工夫している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の皆さまの居室内のカーテンやベッド、あるいはタンス等備品はなるべく利用者の皆さまが使い慣れたものを用意していただくようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気のためにこまめに窓を開閉して、自然の風を取り入れるにしている。		室内環境をクリーンに保持するため室内・共用スペース・厨房等のエアコンフィルター清掃を年5回、換気扇清掃、ガラス清掃を年1回実施している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内は利用者の皆さまの生活の空間であるとともに、食事、談話、レクリエーション、機能訓練など多目的活動の場となっており、自立した生活を送っていただくための総合支援の場となっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の皆さまの個々の特性や状態を把握して自立した生活支援ができるように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	1Fのベランダでの休憩やお茶会、花への水やり、畑における野菜の作付け・収穫、施設外の公園での散歩など施設内、周辺で楽しんでいたための環境づくりに努めている。		